

第1回真庭市地域クラブ活動推進協議会 会議録

日時	令和7年7月29日（火） 18：00～
会場	真庭市役所 2階会議室
出席者	（委員） 長尾委員、小谷委員、前田委員、志田委員、三宅委員、坂根委員、結家委員、柴田委員、木田委員、野々上委員、瀬島委員、松下委員、三村委員、浅野委員
	（事務局） 金谷生活環境部長 スポーツ・文化振興課：佐藤課長、杉村課長補佐、横山主幹 教育総務課：中川課長 学校教育課：田中課長、講元主幹 生涯学習課：福井課長、大久保主事
主な内容	
進行：佐藤スポーツ・文化振興課長 1. 開会 2. あいさつ （金谷生活環境部長） 3. 委員事務局自己紹介 委員及び事務局自己紹介 4. 地域クラブ活動推進協議会について・・・資料 1 真庭市学校部活動の地域連携に関する検討会議（R5～6）（教育委員会部局） 5. 会長・副会長の選任 会 長（長尾 政則） 副会長（野々上 勝） 長尾会長あいさつ 6. 報告・協議 （1）これまでの取組について（杉村課長補佐）・・・資料 2 ・地域クラブ活動に関する方針について説明。 ・地域クラブの認定制度について説明。 ・スポーツ・文化人材バンク制度について説明。 （2）本年度の取組について（杉村課長補佐）・・・資料 3 ・国の動きについて説明 ・実証事業について説明。 ・地域クラブの認定について説明 ・アンケート調査について（講元主幹） 事務局説明	

7. 意見交換

- ・活動場所までの交通手段が課題である。
- ・指導者がなかなかいないと耳にする。
- ・楽器の保管や移動手段などが課題である。
- ・スポ少としても何かできることをしていきたいと思っている。
- ・移動に時間がかかることが課題である。
- ・北房では比較的卓球の子が多く、実証事業では北房だけ実施するようになっているが、できればもっと交流というのも深めることができればと感じる。
- ・固定化された特定のスポーツだけ試行するのではなくて、いろんなスポーツをまたいで楽しむようなことができれば。
- ・将来に渡ってスポーツを楽しんでいくという、一生涯を通じてスポーツを楽しむ人口が増えればと思う。
- ・個人的にハンドボールを指導しているが、マイナーなスポーツなので、なかなか申し込みの数が上がらない。ただ、一番の目標である「やりたいと思えることができる環境作り」というのも絶対必要だと思う。マイナーであろうがメジャーであろうがしっかり取り組んでいくことは大切なことなので、しっかり取り組んでいけたらと思う。
- ・県コーディネーターをしているが、真庭市の場合、非常に連携が取れていると感じる。他市を見てみると、本当に運営ややり方が全然違う。
- ・中学生や保護者の方、これから子どもが中学校になってすぐに直面するであろう小学校4年、5年、6年の保護者の皆さんの情報への温度差が非常に出ているなというのも実感している。
- ・「地域移行」というのが「地域展開」という言葉には変わったが、部活動を地域でするのではなくて子どもたちのスポーツ環境を地域で作っていくということが正しい。真庭市においても市民、保護者の方に伝える必要がある。
- ・教育委員会からも学校の保護者に周知をしているが、今一度、定義も踏まえた上で、市の広報紙などを使って、改めて再周知というのが非常に重要だなと感じている。
- ・自分の居住の市町ではまだまだ学校と行政が連携している感じがしない。
- ・自治体によってかなり温度差があると感じている。居住している地域を越えて地域クラブに所属している方もいるが、クラブ側の思いと学校側の思いとがなかなか合致しない、いい体制ができるのか不安がある。
- ・地域を越えていなくても、市内の中学校と地域クラブ間でうまく連携を取るということは、かなり労力がいるのではないかなと思う。
- ・現在の部活動を指導している先生方の思いと、地域クラブの思いというのは本当に一致していくかというところもなかなか難しいのではと思う。
- ・既にクラブチームで中体連の大会でできるようになっているが、その際も、学校の部活動のチームとして出場するのか、地域クラブとして出場するのかというところで学校はいろいろなことを聞いている。細部にわたって詰めていって本当に円滑に進めていくためには、100%納得して進めることは無理だと思うので、どのあたりですり合わせをしていくのかということも考えないといけないと思う。
- ・高校では地域展開の話は一切でていないので、高校の部活動にもつながっていくのかなという不安がある。これは高校が努力しないといけない。中学校までの学校の環境というのが、自主性を育てるところ、自分自身で体調であったり、自主練習であったり、コントロールする力をつけていっていただけたらと考えている。
- ・様々な関係機関が連携してやっていると感じている。

・「子どものスポーツ環境を地域で作っていく」、「やりたいを叶えられるスポーツ文化の環境を作ってやる」というのは、真庭の子ども数が減ってきている学校現場では、本当に欲しいところである。

・ある中学校は、少人数であり運動部が2つしかない。加入率は約7割であり、母体が小さいので1人当たりのパーセンテージが大きくなる。未加入者は、水泳やバスケットなどのクラブに通っている。学校にないからやりたいけどできないんだ、というふうな子どもたちの思い、そのあたりが救われるというか拾われていくのではないかな。

・圧倒的に部活の数が少ない学校にとっては、体育の授業ではいろんな種目をするが、専門的にというか部活レベルで様々なスポーツをする体験がないため、本当の楽しさもまだわからない。いろんなものに挑戦するということにまだ知恵が及んでいないというようなことがある。

・「真庭市学校部活動の地域連携に関する検討会」という会があると聞いていたが、令和5年と6年とすごい動きがあったんだと、この会で改めて感じた。アンケートであがった数が少ない種目も、せっかく言った意見をなんとか叶えていけるように、私たちもしっかり知恵を出していかなければいけないと強く思っている。

・いろんなことをやってみて、自分の可能性であったり楽しさであったり、そういうものを知りながら自分がやりたいものを選んで自己選択して追求していける、そういうふうな環境が整いつつあるというのがとても嬉しい。

<長尾会長>

・過去の2年間の議論の中では、子どもたちに生涯スポーツとして、中学校の子どもたちにスポーツ文化の機会を地域で環境ができるように整えていこうと進めてきた。

・この地域クラブを選択しないというのも一つの選択肢。それから選択をして一つの種目だけを選択するのも選択肢ですし、他種目をやるっていうのも選択肢でもあるし、また文化の種目を選択し、スポーツの種目を選択するなど、多様な考えでやっていただければと思う。

・現段階では、今ある部活の種目をそうした地域展開ということで進めているが、今後はそれ以外のものにも広げていくということも視野にいれて進めていけたらと感じている。

8. その他

特になし

9. 閉会 野々上副会長